

長澤 道一 日記録・情報関係

阪神・淡路大震災活動報告書

- *宝塚市の活動報告（JH3YRO） 1～ 6
- *災害救済活動を振り返る 7

大阪支部大会への参加

9

クラブニュース（全国84愛好会）

11～22

「阪神・淡路大震災」における活動記録抜粋

平成7



8J3AMQ・JH3YRO
代表 長澤 道一

1: 主 旨

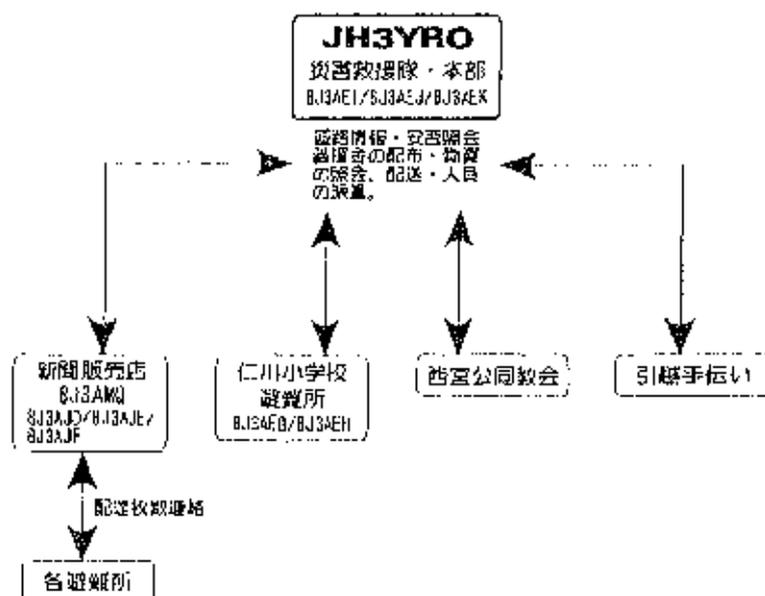
未曾有の大被害を受けた被災地のアマチュア無線局に向け、同好の仲間として支援援助活動を行う。

2: 団 体

J113YRCO 全国84愛好会及び、その他のアマチュア無線局の参加協力を得て「災害救援隊」を組織した。

事務所：〒665 兵庫県宝塚市仁川月見ヶ丘16-11 Tel. 0798-54-0908

責任者：長澤 道一 J13UXN



3: 活動記録

A 無線局設置関係

①平成7年1月21日：ボランティア団体（応援する市民の会）の現地事務所内に基地局を設置する。

運用期間：平成7年1月21日～同年2月19日まで。

運用状況：連絡用、道路情報の収集。

設置場所：兵庫県西宮市南昭和町10-22 公会堂内

搬入機材：144 MHz /430 MHz モービル機・・・計1台

430 MHz ハンディ機・・・計1台

アンテナ、同軸（30本）安定化電源・・・各1個 いずれも有志より拝借の機材

「応援する市民の会とは大阪府社会福祉協議会、大阪ボランティア協会、大阪Y.M.C.、関西NGO協議会、経済団体連合会、ささきあい医療人材センターCOML、たんぽぽの家、地域調査計画研究所、奈良まちづくりセンター、日本青年会議所、日本青年奉仕会、兵庫ボランティア協会等が呼びかけて出来た団体」

②平成7年1月25日：新聞販売店内に基地局を設置する。

運用期間：平成7年1月25日～同年4月1日まで。

運用状況：各避難場に配る無料新聞紙面の枚数確認連絡、及び、道路情報の収集。

設置場所：誌売販売店内 兵庫県宝塚市小林5丁目

搬入機材：144/430 MHz モービル機・・・計1台

430 MHz ハンディ機・・・計1台

アンテナ、同軸（15本）安定化電源・・・各1個 いずれも有志より拝借の機材（2月15

日撤収)

③平成7年1月29日：(社)日本アマチュア無線連盟より携帯無線機を拝借する。

運用期間：平成7年1月29日～同年4月1日まで。

運用状況：各基地局間との連絡用、道路情報の伝達等の非常通信に使用。

場 所：災害救援隊事務所 兵庫県宝塚市仁川月見ヶ丘16-11

搬入機材：8J3AEG、8J3AEH、8J3AEI、8J3AEJ、8J3AEK、8J3AEL、8J3AEN、8J3AEM、8J3AEO、8J3AEP・・・計10台

④平成7年1月30日：仁川小学校（避難場）に携帯無線機を配備する。

運用期間：平成7年1月20日～同年3月31日まで。

運用状況：連絡用に使用。

場 所：宝塚市立仁川小学校 兵庫県宝塚市仁川宮西町1

搬入機材：8J3AEG、8J3AEH・・・・・・・・・・計2台

*追加配備：非常通信用無線機

平成7年1月30日：新聞販売店内に携帯無線機を配備する。

運用期間：平成7年1月30日～同年2月15日まで。

搬入機材：8J3AEI、8J3AEJ・・・・・・・・・・計2台

平成7年2月15日：新聞販売店内に携帯無線機を配備する。

運用期間：平成7年2月15日～同年4月1日まで。

搬入機材：モバイル機（8J3AMQ）・・・・・・・・・・計1台
8J3AJD、8J3AJE、8J3AJF・・・・・・・・計3台
アンテナ、同軸(30㌢)、安定化電源・・・・・・・・各1個

*移 設：非常通信用無線機（新聞販売店用）

平成7年2月15日：災害救援隊 事務局に携帯無線機を移設する。

8J3AEI、8J3AEJ・・・・・・・・・・計2台

*返 還：非常通信用無線機（災害救援隊 事務局用）

平成7年2月11日：(社)日本アマチュア無線連盟に携帯無線機を返還する。

8J3AEL、8J3AEN、8J3AEM、8J3AEO、8J3AEP・・・・・・・・計5台

④その他の救援活動

①2月16日付けで安否照会のはがきを、震災災害地在住アマチュア局宛に発送した。

講習会の管理者名簿控えから抜粋した人数・・・・・・・・80人

その他、知り合いの被災地在住者アマチュア局・・・・・・・・17人 発送枚数 合計97枚

②ボランティア人員の派遣

家屋の片づけ手伝い、引っ越しの手伝いに等に8回、延べ人数18人が参加協力致しました。

③義援金の配布

個人19人、団体5クラブより、計190,000円の義援金寄付をいただき、全半倒壊のアマチュア無線局14人にお見舞金(10,000円)を配りました。

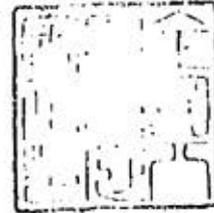
以上

活動記録

兵庫県南部地震における災害救援活動

JH3YRO 災害救援隊

作成 平成七年四月二十日



目 次

1：主 旨	1 頁
2：団 体	1 頁
3：活動記録	1 頁
A 無線局設置	1 頁
①ボランティア団体	
②新聞販売店	
③災害救援隊 事務所	
④避 難 場	
B そ の 他	2 頁
①安否紹介の手紙の発送	
②ボランティア人員の派遣	
③義援金の配布	
4：総 括	3 頁

1：主 旨

未曾有の大被害を受けた被災地のアマチュア無線局に向け、同好の仲間として支援援助活動を行う。

2：団 体

JH3YRO 全国84愛好会及び、その他のアマチュア無線局の参加協力を得て「災害救援隊」を組織した。

事務所：〒665 兵庫県宝塚市仁川月見ヶ丘 16-11 Tel. 0798-54-0908

責任者：長澤 道一 JJ3UXN

3：活動記録

A無線局設置

- ①平成7年1月21日：ボランティア団体（応援する市民の会）の現地事務所内に基地局を設置する。

運用期間：平成7年1月21日～同年2月19日まで。

運用状況：連絡用、道路情報の収集。

設置場所：兵庫県西宮市南昭和町10-22 共同教会内

搬入機材：144 MHz /430 MHz モービル機・・・・・・・・・・計1台

430 MHz ハンディ機・・・・・・・・・・計1台

アンテナ、同軸（30本）安定化電源・・・・・・・・各1個

いずれも有志より拝借の機材

資「応援する市民の会とは大阪府社会福祉協議会、大阪ボランティア協会、大阪YMC、関西NGO協議会、経済団体連合会、ささえあい医療人権センターCOML、たんぼぼの家、地域調査計画研究所、奈良まちづくりセンター、日本青年会議所、日本青年奉仕協会、兵庫ボランティア協会等が呼びかけて出来た団体」

- ②平成7年1月25日：新聞販売店内に基地局を設置する。

運用期間：平成7年1月25日～同年4月1日まで。

運用状況：各避難場に配る無料新聞紙面の枚数確認連絡、及び、道路情報の収集。

設置場所：読売販売店内 兵庫県宝塚市小林5丁目

搬入機材：144/430 MHz モービル機・・・・・・・・・・計1台

430 MHz ハンディ機・・・・・・・・・・計1台

アンテナ、同軸（15本）安定化電源・・・・・・・・各1個

いずれも有志より拝借の機材（2月15日撤収）

- ③平成7年1月29日：（社）日本アマチュア無線連盟より携帯無線機を拝借する。

運用期間：平成7年1月29日～同年4月1日まで。

運用状況：各基地局間との連絡用、道路情報の伝達等の非常通信に使用。

場 所：災害救援隊 事務所 兵庫県宝塚市仁川月見ヶ丘 16-11

搬入機材：8J3AEG、8J3AEH、8J3AEI、8J3AEJ、

8J3AEK、8J3AEL、8J3AEN、8J3AEM、

8J3AEO、8J3AEP・・・・・・・・・・計10台

- ④平成7年1月30日：仁川小学校（避難場）に携帯無線機を配備する。

運用期間：平成7年1月20日～同年3月31日まで。

運用状況：連絡用に使用。

場 所：仁川小学校 兵庫県宝塚市仁川宮西町1

搬入機材：8J3AEG、8J3AEH・・・・・・・・・・計2台

***追加配備：非常通信用無線機**

平成7年1月30日：新聞販売店内に携帯無線機を配備する。

運用期間：平成7年1月30日～同年2月15日まで。

搬入機材：8J3AEI、8J3AEJ・・・・・・・・・・計2台

平成7年2月15日：新聞販売店内に携帯無線機を配備する。

運用期間：平成7年2月15日～同年4月1日まで。

搬入機材：モービル機(8J3AMQ)・・・・・・・・・・計1台

8J3AJD、8J3AJE、8J3AJF・・・・・・・・計3台

アンテナ、同軸(30位)、安定化電源・・・・・・・・各1個

***移 設：非常通信用無線機(新聞販売店用)**

平成7年2月15日：災害救援隊事務局に携帯無線機を移設する。

8J3AEI、8J3AEJ・・・・・・・・・・計2台

***返 還：非常通信用無線機(災害救援隊事務局用)**

平成7年2月11日：日本アマチュア無線連盟に携帯無線機を返還する。

8J3AEL、8J3AEN、8J3AEM、

8J3AEO、8J3AEP・・・・・・・・・・計5台

4：その他

①2月16日付けで下記のはがきを、激震災害地在住者宛に発送した。

講習会の管理者名簿控えから抜粋した人数・・・・・・・・80人

その他、知り合いの被災地在住者アマチュア局・・・・・・・・17人

発送枚数 合計97枚

何かお手伝い出来ることがありませんか。

未曾有の大被害をもたらした「阪神大震災」が起きて早、一カ月を過ぎようとしておりますが、未だ、ライフラインが完備されていない所も多々有り、物心ともにご傷心の事と推察致します。

アマチュア無線を愛する仲間として、何かお手伝いが出来ましたらと思ひご連絡さしていただきました。何かとお取り込み中ご不便があるかと存じますが、何かございました時は、いつでもご連絡下されば、すぐにお手伝いに上がりますので、なんなりと仰せ下さいませ。誠に微力ではございますがお役に立てれば、幸いと存じます。

全国84愛好会 JH3YRO

〒665 兵庫県宝塚市仁川月見ヶ丘16-11

Tel. 0798-64-0908

長澤 道一

②ボランティア人員の派遣

家屋の片づけ手伝い、引っ越しの手伝いに等に8回、延べ人数18人が参加協力致しました。

③義援金の配布

個人 17 人、団体 5 クラブより、計 170,000 円の義援金寄付をいただき、14 人の人達にお見舞金 (10,000 円) を配りました。

配布名簿

割愛しました

5：総 括

震災発生時は、個人レベルのつながりで災害通信の確保等を行ってききましたが、被害の大きさ、ニュースの変化を認識するにつれ、個人レベルのつながりの支援活動では限界を感じて、クラブ紙に有志を求める文を掲載し、「災害救援隊」を再編成し直して災害救援活動に取り組んだ。

11.7.1.17 未明に兵庫県南部地方を突然に襲ってきた震度 6～7 の大地震により、同地の交通網、通信網、ライフライン等は瞬時のうちに壊滅的な打撃を受けた。また、住宅被害は被災地の 35%～70% が全半壊、一部損傷のダメージを受け、5502 人の尊い命が奪われました。誰もがこのような地震が来るとは、予測不可能の自然災害でしたが、しかし、被害を拡大させた一因は、災害発生時の官公庁の対応の遅れが示すように、空前絶後の被災地規模のために正確な情報収集が困難だった事だと考えられる。しかるに、災害時においては、有線通信の利用は不可能、情報の収集は皆無となるのは常識で有ると再認識すべきであり、その様な情報伝達の不可能な空白時の混乱期にこそ活躍出来るのは、非常通信が可能なアマチュア無線通信で有るべきである。我々の他にもクラブ単位での救援活動は有ったと聞き及んでいるが、しかし、アマチュア無線の組織だった非常通信運用が立ち遅れたのも紛れもない事実で有り、また、反省を促す点でも有る。

私たちの災害支援活動においても、有線通信網が寸断され、災害無線通信が交信の不安定のため、各被災地の実状が外部に正確に伝わらなくなり、被災者が望んでいる支援活動が思うように出来なかった無線通信運用上の反省点がある。例えば、宝塚市内からはとても JA3YRL/3 が運用している神戸市東灘区にはおろか、近隣市の芦屋市内にでも 10 呼機では交信出来ない地域で在り。携帯無線機ではレピーターを介しての交信が不可欠で有るが、肝心のレピーターが停波状態で、情報の伝達方法は移動局、常置場所での運用局の中継に頼る状態で有って、とてもスムーズに情報の伝達が行えたとは思えない問題点が多々有ったが、今回の震災を教訓として、

1：災害時における機敏な組織だった情報通信網の確立と運用。

2：レピーターの設置を含めた通信の有効活用方法。

以上の様な非常通信の運用上の諸問題について、早急に対応策を思考し、実行すべきであると考えられる。

以上

末記になりましたが、被災されました方々の一日も早い復興をお祈り致します。また、参加支援して下さりました方々、非常通信用無線機を貸し出して下さいました(社)日本アマチュア無線連盟に心より感謝のお礼申し上げます。

「阪神・淡路大震災における災害救援活動を振り返る」

平成7年7月15日

8J3AMQ・JHBYRO

代表 長澤 道



さる、平成7年1月17日未明に阪神地方を襲った震度6～7の未曾有の大地震で、阪神間のライフラインはクズタに切断され、5500余命の尊い人命が失われた。また、多くの家屋が全半壊のダメージを受け、震災後6月も過ぎようとしているのに、道路の復旧は進まず、あちらこちらの公園にはまだテント村が存在する現実をいまも、今回の地震のむごさを再認識する次第であります。

大地震が当地を襲った1月17日当日は、被災者のだれもが今起きていることが現実の事と判断するのに戸惑を感じたはずで有る。まさか、“一瞬のうちに家が押しつぶされる”とは、だれもが理解できるはずがありません。また、外部からの情報は皆無の状態。何をするのにも当然制約が有るなかで、出来ることと言えば、家族いかにして守るかが精一杯の事で、「とても非常通信を行う事までは気が付きませんでした。」と言うのが正で有った。

その様な状況のなかで当初、取り得た行動は、多くの被災されたアマチュア無線局が実践されたように、居住域内での救援等のボランティア活動でありました。幸いにも私の住んでおります地区（兵庫県宝塚市仁川）は、気が17日午後には復旧致しましたので、UIHF帯（430MHz・F3）の無線機を使っての交信が出来る状態にはなりましたが、しかし、とても、交信が正常に出来る精神状態、状況ではなく、ローカルの避難所等の雑用に迫られる日々であり、居住地域外に目が向けられる余裕が出来たのは震災後4日目であった。

最初に行った行動は、大阪市在住のJG3NFH 茂村裕史氏からの「緊急通信のための基地局の設置提案」に答え物であり、提案当日の21日午後九時過ぎ、早速、UIHF帯（F3）で交信していた仲間へ急遽「今から基地局を宮市に設置しに行く。」と協力と資材の提供を呼びかけて、設置出来たのが西宮公会館「応援する市民の会」地事務所内の基地局で有った。ボランティア団体の現地事務所内で基地局を運用する事がいかに大切な事か、後の各避難所の物資配布の状況を見れば一目瞭然であるが、当方達の願いが届かず、外部からの通信機材の提供、オペレータの派遣等、救援の手が向けられず、残念ながら決して成功したと言えない結果しか残せませんでした。以後、私達はクラブ組織を有効に生かして「JHBYRO 災害救援隊」を組織して、新聞販売店への無線機設置 95/01/25（各避難場に配る無料の新聞紙面の枚数報告、道路情報）・避難所への移動無線機材設置 95/01/30（夜間物資の照会）・安否照会のはがきの発送 95/02/16（激震地のアマチュア局宛）・引越の手伝い要員の派遣 02/01へ・義援金の配布 95/03/01～（避難されているアマチュア無線局に対して）等の活動を多くのクラブ員及民間アマチュア無線局と行って来た。

そもそも、被災地の被災者が災害救援通信を長期的に行うと言うことは物理的、精神的にも非現実的の事であるが、今回の災害救援通信での特異的な現象は、JA3YRL/3、等の例を見るように、長期に渡り活躍された方々の多くは被災地在住の被災者達で有った事実である。

また、危機管理体制の対応のまずさの為、私達が8J3AMTの存在を知ったのも、災害通信用無線機（8J3***）復旧が決まった日の約1週間程前であり、その他のサブ局と言われる8J3AM*から始まる固定局が存在した事があったのも、つい最近の出来事である。このように、何処からも連絡がない孤立無援状態での救援活動としては1%成功したと言えるかもしれませんが、しかし、初動の対応における人員確保のまずさ等、被災者であるがえの遠慮感がマイナス思考を引き起こしたと思える節が有ることも反省材料の一因であり、災害時においては、外部からの救援活動と連動しての地域救援活動が最重要である事を私達アマチュア無線家に今後の反省材料として残した。

最後に、今回の震災におけるアマチュア無線局の活動が社会的に評価されておりますが、しかし、評価の方法長たして正しいのか？。本当に評価されるべきである、被災地に出かけて活動された、何千人の線の下のボランティア アマチュア無線局に「あなた達こそが主役です」と最大限のエールと賞賛を送ります。

(資) 義援金に同封した書面

震災お見舞い申し上げます。

未曾有の大被害をもたらした「阪神大震災」では多大な被害を被られたこと心よりお見舞い申し上げます。

私たちアマチュア無線愛好家は、アマチュア無線を愛する仲間が物心ともにご傷心の事と推察し、何かのお役にたてればと思い、この度、義援金を募り、ご貴殿に見舞金を送ることと致しました。

誠に寸志でございますがお役に立てれば、幸いと存じます。

何卒お体にご留意のうえ、一日も早く復興され、お空の上で楽しいQSOが出来ますようお祈り申し上げます。

平成七年三月

The ENKOKU 84 AIKOHKAI is Courtesy Amateur Radio Club

全国84愛好會 **JH3YRO**

〒665 兵庫県宝塚市仁川月見ヶ丘 16-11

TEL/FAX: 0798-54-0908

☆ご記入の上、担当者にお渡し下さい。☆

受取証

日 時	お名前	呼出符号	備 考
月 日			

担当者

参加いたしませんか。

1995年6月4日 日曜日

JH3YRO
災害救援隊

〒885 宝塚市仁川月見ヶ丘16-11
TEL/FAX: 0798(54)0908

長澤 道一



拝啓 梅雨の折から、皆様にはますますご健勝の事と存じます。いつも一方ならぬお力添えにあずかり、誠にありがとうございます。

さて、早速ですがこの度、JARL大阪支部では支部大会のメイン行事として、「震災救援とアマチュア無線」（講演者・JH3GXF 我孫子達氏、JK3LFO 富安大輔氏）の講演会を来る6月11日・14:00～15:00から吹田市リサイクルセンター「くるくるプラザ内」で催す予定だそうです。（JARLNEWS 6月号によれば）

震災後、ボランティア活動に心身をなげうって活躍されました各位様には、災害時における対応のまずさ等の不満、言いたいことが解消されずに、山積されたまま今日を迎えられた事と推察いたします。なにいう、私も、この貴重な体験をこのまま眠らすのは、多くの賛同者の善意を踏みにじる物だと考え、事有るごとに、声を大にして「貴重なノウハウをお持ちの、ボランティア活動に従事した各局の意見交換、発表の場を設定して下さい。」と言ってきましたが、現在まで、哀しいことに声が届かず、実現いたしませんでした。私は、この度の機会を掴まえ、講演後、質疑応答が可能か？。JARL非会員が講演会に参加可能か？。主催者である、大阪支部長・宮本荘一氏に文章（6月5日発送）にて確認を取り、この機会を有効に生かす所存であります。

何かと、ご多忙とは存じますが、皆様お誘い合わせの上、「災害通信に携わった者として、知っておきたい事実、経緯」を知り得る、絶好のチャンスですので是非ご参加し、災害通信に関与した、また、被災地のアマチュア局として、日頃から疑問だと思っている事に関して、疑問解明を一緒にいたしませんか。なお、行きたいが予定が立たない場合で、どうしても、この件について質問してほしい事が有りましたら、下記までご連絡下さいましたら、代わりに質問させていただきます。

取り急ぎお知らせまで。

敬具

記

問い合わせ先

〒665 兵庫県宝塚市仁川月見ヶ丘16-11

長澤 道一

TEL/FAX 0798-54-0908

以上

CLUB NEWS

The ZENKOKU B4 AIKOHKAI is Courtesy Amateur Radio Club

発行日：1995年2月1日

発行人：全国84愛好会

〒665 宝塚市仁川月見が丘16-11

Tel/Fax 0798-54-0900

がんばろや ファイト

We Love My City

震災お見舞い申し上げます

未曾有の大被害をもたらした「阪神大震災」では多大の被害を被られたこと心よりお見舞い申し上げます。

その被害は想像を絶するもので、今なおご不便な生活を強いられておられるみなさまの心中、察するに余りあります。

当クラブはこうした非常時にこそ協力して皆様のお役に立つため全力を挙げて奮闘しているところであります。しかし、私どももまた多くのメンバーの家屋が全半壊するなど被災し、ご承知のような、交通状況もあって思うにまかせないのが実情であります。

私達は一刻も早くこの危機を乗り越えるるために、従前にも増して取り組む決意であります。

みなさまには以上のような実情をご賢察のうえ、ご支援、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、みなさまに一刻も早く平穏な生活がもどりますようお祈りしております。

平成七年二月

INFORMATION

中止、延期のお知らせ

「新年会」は中止とさせていただきます。

「新年QSOコンテスト」の入賞者の発表は延期させていただきます。

震災

私は、土砂崩れにより 34 名もの死者を出した仁川の近くに住んでいる。幸い、家屋は無事であり避難場暮らしをしておられる人達、また、肉親を失ったり家を失ったりした人と比べるとすべもないが、震度6の空前の「阪神大震災（兵庫県南部地震）」の震災に遭った側の視点から、災害時におけるアマチュア無線の問題点を中心に述べてみたい。

（1月17日午前5時46分）

地震発生と共に電話、ガス、水道、電気の供給がストップする。一体、何がおきたのか。とてつもない恐ろしいことが起きたらしいが、事実確認が出来ない。外では、名前を呼び合う声、怒鳴り合う声があちこちから聞こえる。

（同日午前8時10分頃）

電気が復旧する。早速TVの電源を入れてニュースを見る。地震が起きた事がやっと把握できる。TV局でも何処で何が起きたか把握できず、混乱しているようす。流れるニュースは震災のすごさを伝えるだけ、肝心の「今後どうなるのか」、「どうしたらいいのか」等のライフラインを含めての生活情報が全くない。余震が頻繁に続く中、とても、緊急通話が出来る精神状態ではない。家の中は食器等のガラスが割れたまま散乱し、片付ける気にもならない。

（同日午後1時頃）

自宅が大丈夫か外に出て確認する。虚ろな目をした多くの人達がおしだまったまま、急ぐのではなく漠然と道路を徘徊している。また、道路には倒壊した家がおおいかぶさり、至る所で道路が陥没、亀裂しており、おまけにガス漏れの臭いがし、とても危険な状態である。

家の中の割れたものを少しだけ片付け、近所の人達とコーヒーを沸かして飲む。誰もが無口で言葉少ない。近くの仁川小学校が避難所と知らされる。

（同日午後3時頃）

割れたガラス類をかたづけ、家の中を整理する。まだ地震が起きたことが理解できない。まるで、夢の中の出来事みたいに思える。

実家が心配なので西宮の一ヶ谷まで1時間かけて歩いて行く。道中、いたるところで倒壊家屋が有り、震災のすごさが伺われる。また、道端には放心状態の人達がたたずんでおり、誰もが現実を探しあぐねているみたいである。

（同日午後6時頃）

余震が有るので避難所に行こうと誘われるが、家屋が大丈夫みたいなので断る。生活情報は口コミに頼るのみ。

（1月18日）

初めて無線機の電源を入れる、幸いコンピューターも壊れていない見たいなので音声BBSを動かす。無事で有ることを送信し、メンバーの安否を聞く。

（1月20日）

JG3NFH、JO3MVE、JE3CCM、JP3SB A各局の協力を得て、阪急西宮北口駅の北西に災害通信用のアマチュア無線基地局を設置する。

役員会

今月の役員会は

2月25日（土） 午後6時からです。

(応援する市民の会・西宮市南昭和町 公会教会内) やっと、電話が深夜だけかかりやすくなり、知り合いの安否情報が取れ出す。

(1月22日)

*JARL関西地方本部で緊急会議が開かれる。電話が完全復旧する。

(1月24日)

J A 3 A A、J G 3 N F H各局と基地局でアイボール。支援をお願いする。

(1月25日・震災後8日目)

J A 3 X Z W、J O 3 M V E、J G 3 N F H各局と基地局でアイボール。ボランティア団体(応援する市民の会)にN C A(業務無線)を5台渡す。

*JARL関西地方事務局では海老沢専務理事が来阪し、緊急用の携帯無線機200台の貸与が兵庫県支部長秋川氏にされる。支部長は震災後、被災地を見たのはこの日が初めてであるとの事。なお、26日迄に貸与された携帯無線機を芦屋市役所に20台、東灘の登録クラブに5台配ったとのこと。

(1月27日)

読売新聞の朝刊に「避難所に携帯無線機 ハム仲間が設置

被災者らに救援物資などの情報をいち早く伝えようと、日本アマチュア無線連盟関西地方本部(島伊三治本部長、二万人)は二十六日、神戸市東灘区に中継基地を設置し、各避難所に携帯無線機を配った。

いまだ電気や電話などの通信機能が回復しないところが多く、ハム仲間が立ち上がった。東灘区住む会員のフォトジャーナリスト富安大輔さん(37)方を中継基地にして無線機を設置。会員八人が携帯無線機百六十機を持って西宮、芦屋、神戸市内などの避難所を回った。各所で無線機を使える人に協力を頼み、被災者の所在確認や不足の救援物資、交通事情などの情報を交信する。」との記事が載る。

(1月29日午前2時50分)

*JARL兵庫県支部役員我孫子氏より携帯無線機10台を自宅にて預かる。

(1月30日)

避難所(仁川小学校)等に携帯無線機5台配る。

(2月5日)

読売新聞の朝刊により「アマチュア無線非常通信用周波数 日本アマチュア無線連盟がセンター局J A 3 R L、サブセンター局J A 3 Y R Lを開設し、午前10時~午後7時、救援のための非常通信。郵政省が436.88MHz、436.72MHz、436.50MHzの周波数を特別許可した。詳しくはJARL関西地方本部」の記事で非常通信用の周波数が設定されたことを知る。

災害時にこそ効果的な運用が可能であり、社会に貢献できるはずのアマチュア無線ですが、上記のように、震災後、JARL関西地方本部が組織だった運用を始めたのは有線網が正常に回復し、新聞等のマスメディアも正常化された数週間後のことであり、初期対応のまずさ、遅れのそしりは免れないと考えられる。

今回の震災により、JARL関西地方事務局、JARL関西地方本部は危機管理体制の不備、対応のまずさ、無能ぶり等の問題を白日のもとにさらしたが、しかし、一方では、アマチュア無線家の人々が草の根単位の動きで災害復旧に活躍した事を忘れることもできない。今となった現在、せめて、この震災を教訓として緊急災害に即応するような柔軟性のある危機管理体制の構築を願うばかりだ。また、JARL関西地方本部では、昨年5月に近畿地方非常無線通信協議会と合同で非常通信訓練を行ったが、あれは一体何だったのか。絵に描いた餅では役に立ちません。おおいに反省してほしいものだ。

今回の「阪神大震災」により被災されました皆様にご覧でお見舞い申し上げますとともに、一日も早く復興されますよう心からお祈りいたします。

DE J J 3 U X N / 長澤 道一

阪神大震災へ・・・ 広がれボランティアの輪

1月17日午前5時47分19秒、突然にそれは阪神地区をおそった。死者5千2百人以上、負傷者2万6千人以上(2/9現在)の大惨れをもたらした激震は、当分の間歴史に刻み込まれるだろう。

勝手気ままな「天災」も、時として「人災」に指弾される事もある。今回の政府の対応、危機管理能力、情報の伝達、近代都市の乱開発と防災措置の後手・・・など枚挙にいとまない実対が少しづつ明らかになってきており、即応的・効果的な対応が取られたならば犠牲者の数は少しは減っていたらう。

情報と報道内容、とくに今回マスコミも大挙して震災の映像を連日映し出しているが、現実はずっとひどい破壊であり、瓦礫(ガレキ)の山々そして疲れ切った人々の存在である。

テレビメディアは、その大半が現実よりも大げさに映し出されることがあるように思うが、今回は現実の方がまさっているように思う。

そんな中で、余っている時間を使ってボランティア活動に出かけた。去る1月24日、職場の仲間数人を誘って、阪神電車「甲子園駅」で下車、約1¹/₂程歩いた「東甲子園小学校」へと出向いた。

行く道途では、緊急車両がけたたましくサイレンを鳴らし駆けていく。街の至る所では、道路の陥没や、家屋の全半壊、水道管の破壊など地震による痛ましい現実が次々と目に入った。子供達は、水のくみ出しを手伝ったり、またある家の前では、「遺体搬送中」の表示を貼りだした車数台が停車し、重苦しい雰囲気にも包まれたり、西宮の街全体が、大震災の現実をなんとか受けとめ必死の生活をしているまさに闘いのまっただ中の様相を呈していた。

緊急の支援物資などは、当初兵庫県庁などに搬入されていたが、道路事情(大渋滞で動けない)と物理的な保管場所などで、西宮市内の一部学校内の体

育館などに振り分けられている。

東甲子園小学校は、市内4ヶ所目で5ヶ所目も満杯状態6番目の体育館などが予定されていると聞いた。

私たちは、早速運び込まれた物資などの搬入と搬出を手伝うことになった。搬出は、長野県からの「リンゴ」と和歌山県からの「ミカン」の搬出で1箱20kg前後で4tのトラック5～6台分を神戸市庁舎へ運び出したと思う。

トラックが運搬に出ている間は、次々に届けられる「ゆうパック」の開封と仕分け作業を行った。

郵便局の小包は、緊急災害対策本宛はすべて無料とあって、かなりの個数が届いていた。全国の人達の心ある温かい被災者支援物資に、手伝う我々としても非常に温かいものを感じとった。

しかし、表示に「毛布」と記されていても内容を見てみると缶詰が入っていたり、ウエットティッシュが入っていたり、分類に大変な労力を要することがわかった。

例えば、赤ちゃん用の紙おむつにしても、800個程の段ボール箱になったし、男の子と要因が不足しており善意が即、被災者の方々の手元に届くまでにはいくつかの改良点があるように思った。

連日、兵庫県下の被災状況が映し出されているが、ボランティアも横のネットワーク・情報伝達が進んできていると聞く。行政などの目の届きにくい部分もボランティアは、小回りが利くしカバーが出来る。いくつかの大学は、ボランティア活動の「単位」付与を認める動きになってきているし、大変歓迎されることである。

一人でも多くの方が、阪神大震災へのボランティア活動に参加する機会を是非作っていただいて、体験してほしいものだ。

今回の「阪神大震災」により被災されました皆様に対し、謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早く復旧されますよう心からお祈りいたします。

De J L 3 S Q Q / 北村 博

いい夢見ましたか

今年も何事もなく亥年を迎えました。各局はどんな初夢を見ましたでしょうか？ 私ですか。私も一人前に夢を見ます。くだらないか知れませんが、よもやま話のついでに聞いてください。

次郎 ふと目を覚ますと、手にタバコ箱サイズの物を持って歩いているではありませんか。誰が？。当然私です。その箱に向かって、流暢なフランス語で何か話しているではありませんか。お相手は当然パリのマドマゼールではありませんか。「どう、そちらの気温は相変わらず寒いですか？。JAも今年久しぶりに雪が降りました……。」

太郎 ふ～ふん。

次郎 携帯電話でKIDに繋いで話していると思っただけでしょう。これが、違うのです。な、なんとそのタバコサイズの物はアマチュア無線機でし

た。その無線機を使ってJAだけでなく、FもOEでも世界初のJA自慢のアマチュア無線中継専用の衛星で気軽にフオンで話ができるのです。それも不思議に悪戯の無変調もなく、混信もなく交信ができるのです。JA名物？の混信は過去の物。どうだビックリした？。

太郎 いいえ。それからどうしたの。

次郎 愛想がないね～え。その箱を手を持ってテンキーを押してるでは有りませんか。何か予約を取っているみたいですよ。そうです。飛行機の座席予約はその箱からテンキーで有線を経由して会話を交わすこともなくして、予約が取れるのです。どうだ、こんどこそビックリしたでしょう？。

太郎 いいえ。さめた表情。

次郎 今度こそは、ビックリするでしょう。

ふと白々しく回りを見渡すと、その箱を持った人が大勢いるでは有りませんか。その人達もめいめいに何か話しているでは有りませんか。不思議がって隣の人に話しかけてみました「あの箱を持って話している人が多いが、混信がないの？」

隣の人 「混信」・・・？。その言葉は過去のデータバンクに載っていましたが。昔は、電波は限られた資源で、混信問題が有ったと歴史の本に載っていましたが。その「混信」ですか。現在はその言葉は「死語」です、人間の知恵で電波利用は限りなく利用できる用に開発されました。ご存じではないのですか？？？。

次郎 そう、そうですか。それでは、あなたもアマチュア無線家ですか？。

隣の人 そうですよ、JAでは国民の2人に1人はアマチュア免許を持っていますよ。

次郎 それでは、呼出符号は足らないのでは？。隣の人 呼出符号は足らなくなるはずが有りませんよ、JAのあとに各自のID番号を言うだけですが。足りなくなるはずがありません。おかしなことを聞く人ですね。

次郎 そうですか。何か背がなつかしいですね。

隣の人 ???????。

次郎 ビックリした？。

太郎 別に。それからどうしたの。

次郎 残念ながらトイレに行きたくて、目が覚めたのですが。また、この夢の続きを見たいのですが、どうしたら見えると思う。

太郎 そんなの簡単だ！。現実に目を反らしたらいいだけだ。

次郎 ?????？。

DE 長澤 道一

注釈

JAとはJapanを指す。ゾーンはITU:45、CQ:25です。

FとはFranceを指す。ゾーンはITU:27、CQ:14です。

OEとはAustriaを指す。ゾーンはITU:28、CQ:15です。

この文は、震災以前に書かれたものです。

高野連事務局長（田名部和裕）談

「怪はずみな行動で被災者の心情を逆なでしないよう、期間中は選手、応援団を含め自粛を申し入れた。強制ではなく、選手らの善意は否定しない」

交通規制を延長

兵庫県警災害対策警備本部は、3月31日で期限切れになる、復興、生活ルートの交通規制を4月28日まで延長した。

規制内容 4月1日より

復興ルート	
国道43号線 AM6:00～PM9:00	尼崎市武庫川2丁目交差点～ 神戸市灘区岩屋交差点 TAXの通行が可
阪神高速湾岸線 AM6:00～PM9:00	中島ランプ～魚崎浜ランプ TAXの通行が可
阪神高速神戸線 AM6:00～PM9:00	尼崎東ランプ～武庫川ランプ TAXの通行が可
名神高速 終日・下り線のみ	尼崎インター～西宮インター TAXの通行が可

生活ルート	
国道2号線 AM6:00～PM9:00	尼崎市西大島交差点～ 神戸市灘区岩屋交差点
第2神明道路 AM6:00～PM6:00 東行きのみ	西明石インター～ 須磨インター
阪神高速北神戸線 AM6:00～PM6:00 東行きのみ	伊川谷ジャンクション～ 箕谷ランプ
新神戸トンネル AM6:00～PM6:00 西行きのみ	

避難所の統合化

西宮市教育委員会は、4月をめどに市立学校の避難所を「統合化」する方針を固めた。

同市の避難者は市内136ヶ所に約8,900人が5日現在おられ、そのうち市立小、中、高校の40校が避難所になっているが、仮設住宅などの入居が進み、少人数になった学校の避難者を公民館などに移ってもらう統合案を発表した。

川西市は、現在避難している39所帯92人が3月末までに自宅、仮設住宅に移る見通しとなったため、市内7ヶ所の避難所を4月15日で閉鎖する事を決定。

食事配給の打ち切り

神戸市、芦屋市は避難所に実際に寝泊まりしている避難者以外の被災住民への食事提供を、一部を除き打ち切ることとした。

神戸市=3月26日から打ち切り

芦屋市=4月1日から打ち切り

神戸市は避難所に寝泊まりをしないで、食事だけを取りに来る避難者は約42,000人と推定。また、芦屋市の避難所は現在42ヶ所で、約2,800人が生活している。

兵庫県警官の手記

神戸市長田区に応援出動した、兵庫県相生署の吉田輝男警部補が遺体安置所となった私立神戸村野T高体育館で体験した出来事を、部隊活動記録にA4用紙2枚で添付した手記が載っていましたので、転載いたします。

1月23日、私は2回目の出動をした。

任務は長田署管内の救助活動・遺体捜索。そして村野T高体育館における遺体管理と検視業務の補助であった。

仮の遺体安置所になった体育館は沢山の遺体と、それに付きそう遺族であふれていた。

そんな中で、一人の少女に、私の目は釘づけになった。

その少女は、膝の前に置いた、焼け焦げた「ナベ」にじっと見入っていた。泣くでもなく、哀しむでもなく、身動きもせず、ただじっと見入っていた。私は、その少女に引かれるように近寄っていった。

「ナベ」の中に小さな遺骨が置かれていた。

「どうしたの」。思わず問いかけた私の一言がその少女を泣かせてしまった。どつとあふれだした涙を拭おうともせず、懸命に私の目を見つめ、とぎれとぎれにかたり続けた。

「ナベ」の中は、少女が拾い集めた母の遺骨であるという。

その夜（注・1月16日）も少女は母に抱かれるように、1階の居間で眠っていた。

何が起こったかも解らないまま、気が付いたときは母とともに壊れた家の下敷きになって、身動きもできない状態になっていた。

それでも少女は少しずつ体をずらし、何時間もかけて脱出できた。

家の前に立って、何が何だか解らないまま、どの家も倒れているのを見た。火事が近くに迫っているのを見た。

多くの人が、何か叫びながら走り回っているのを見た。

しばらくして、母が家のなかにとり残されていることに気が付いた。

「おかあさんを助けて」「助けてお願い」走り回っている大人たちに片っ端からしがみ付き、声をかぎりに叫び続けた。

誰にもその叫びは聞こえなかった。声は届かなかった。

迫ってくる火事に、母を助けられるのは自分しかないという決断を強いられた。

母を呼び続け、懸命に家具を押し退け、瓦礫を放り投げ、一步一步母に近付いていった。

やっとの思いで、母の手を捜し当てた。姿は見え

なかった。

母の手を見付けたとたん、その手を握り締めた。

その時、少女の手は血塗れになっていることに気が付いた。

「おかあさん」「おかあさん」「おかあさん」手を握り締め、泣きながら叫び続けるだけであった。

火事は間近に迫っていた。

火車の音が聞こえ、熱くなってきた。

母は懸命に語りかけたが、かほそい声で少女には聞こえなかった。

「おかあさん」「おかあさん」と叫び続ける少女に名前を呼ぶ母の声がようやく聞こえた。

「ありがとう。もう逃げなさい」と母は握っていた手を放した。

熱かった。恐かった。夢中で逃げた。

すぐに、母を抱え込んだまま、我が家が燃えだした。

燃え盛る我が家をいつまでも立ち尽くし、見続けた。

声もでなかった。涙もでなかった。

翌日、何をしたか、どこに居たか、覚えていない。

翌々日、少女は一人で母を探し求めた。

そして見つけた。

少女は、いま一人で見つけた母を「ナベ」に入れ、守り続けている。

語る続ける少女の目から、いつのまにか涙が消えていた。

ただ聞くだけの私は、声もせず、涙だけがあふれ続けた。

母と二人。この少女がどんな生活をしていたか私は知らない。

一人になったこの少女に、どんな生活が待っているか、私には解らない。「この少女に神の加護がありますように」。生まれて初めて「神」に祈った。

この少女に、慰めの言葉も、激励の言葉も何も言えなかった。

何度も何度もうなずくだけで、少女に前を逃げた。

少女は、最後まで、私の目を見続け、語り、そして語り終えた。

その目は、もっと多くのことを、私に語りかけ、今も語り続けている。

目は生きていた。

哀しいと思った。美しいと思った。

強いと思った。

少女の名前を聞くのさえ忘れていた。

転載：読売新聞 3/17

その後、真っ黒に焦げ、ひしやげた小さな鍋を前にしてひざを抱えいた、小学校三、四年生くらいの少女の消息はわからなくなった。

自宅に住む被災者の生活実態アンケート

兵庫県長寿社会研究機構が神戸、西宮、宝塚の各市と淡路島北部の被災地に住む 7,300 所帯にアンケートを実施。回答のあった 2,014 件についての中間報告をまとめた。

約 1 割の人が入院、死亡などの人的被害を受け、家屋の損壊は 6 割、家財の被害は 8 割が受けている。「地震を思い出させるものを見たり聞いたりするとつらくなる」70.4%など、精神面への影響も大きい。

仕事の状況も深刻で、「仕事や勤務地が変化した」17.5%。具体的には「同じ職場で勤務地変更」31.9%、「自宅待機」5.8%、「解雇され、失業した」5.4%。自営業も「再会準備中」17.3%、「めどなし」7.5%。

的確な「情報が得られなかった」という不満も目立ち、身近な生活情報は口コミで、ライフラインや交通情報はマスメディアで得ており、行政の広報、窓口の利用は少ない。

代わりに近隣の助け合いが大きな力を発揮した。震災以前は「預かり物など、ちょっとした頼みごとをしたり、されたりする」37.0%、「困った時に相談にのったり、世話をしあったりする」11.9%。自治会活動にも約 4 割が「あまりかかわっていない。」

しかし、被災後「水くみ」に関しては 20.2%が近隣の支援を受け、27.5%が自分も支援した。買い出しは親類や友人に、家のかたづけは親類同士、炊き出しはボランティアの支援を得た。

これからの暮らしの展望は「住居を修繕してこのまま住み続けたい」と 8 割の人が思っている。

今後のまちづくりについては「防災機能を備えた安全なまちづくり」69.8%、「住まいと保険・医療・福祉機能が一体となったまちづくり」42.6%、「ごみ処理や下水道などの整ったまちづくり」33.2%と生活密着型の施策を望む声が高い。

複数回答	支援を受けた (%)				支援をした (%)			
	近隣	親類	友人	ボランティア	近隣	親類	友人	ボランティア
水くみ	20.2	14.8	10.0	7.8	27.5	9.5	5.4	1.9
炊き出し	7.2	10.6	6.4	17.2	10.0	7.5	5.6	5.7
買い出し	7.4	23.5	14.4	2.6	12.9	10.3	5.9	1.1
救助活動	2.1	1.7	1.0	0.9	6.6	2.5	1.3	1.1
家のかたづけ	3.2	10.5	3.3	0.8	8.3	11.2	3.9	0.4
高齢者等の介護	0.4	2.1	0.2	0.5	3.7	4.8	0.6	1.1
外出の手助け	1.5	1.4	1.4	0.2	3.5	3.5	1.4	0.2
子どもの世話	1.7	3.9	3.9	0.4	4.3	4.2	2.8	0.2

TOPICS

神戸まつりが中止

楽しみにしていた、ミナト神戸のイベント「神戸まつり」の中止が決まった。神戸市民祭協会実行委員会が阪神大震災で会場確保が困難なことや市民感情に配慮し、避難生活の市民が多い、担当する市職員に余裕がない等として全員一致で中止を決めた。

神戸まつりは、今年が 25 回目で、例年、5 月の第 3 週の週末に 3 日間開かれ、市役所前のフラワーロード前でサンバなどの華麗なパレードを繰り広げる、市最大のイベントです。

CLUB NEWS

The ZENKOKU B4 AIKOHKAI is Courtesy Amateur Radio Club

発行日：1995年 5月 1日

発行人：全国84愛好会

〒665 宝塚市仁川月見が丘16-11

Tel/Fax 0798-54-0908

がんばろや ファイト

あの日を私達は忘れません！

1995年1月17日午前5時46分。兵庫南部地方を突然襲った大震災から104日が過ぎ、復興の足音も近くに聞こえて来るようになってきましたが、依然として道路事情は改善されてなく、主幹線道路である2号線、43号線の全面開通は来年の春以降とのことです。しかし、最後まで救援活動に携わっていた自衛隊も100日目を迎え、撤収をいたしました。

私達の「災害救援隊」も、当初の目的を達成したと判断し、一区切りを付けるために4月20日を持って解散する事と致しました。長期にわたる期間、何も文句も言わずに活動された方々には頭が下がる思いで一杯です。本当に長い間有り難うございました。また、被災された方々の一日も早い復興をお祈りし、「災害救援隊」の解散報告をさして頂きます。ご支援、ご協力のほど、誠に有り難うございました。

平成七年五月

INFORMATION

災害救援隊の解散報告

震災発生時は、個人レベルのつながりで災害通信の確保等を行ってきましたが、被害の大きさ、ニュースの変化を認識するにつけ、個人レベルのつながりの支援活動では限界を感じて、クラブ紙に有志を求める文を掲載し、「災害救援隊」を再編成し直して災害救援活動に取り組んだ。

11.7.17 未明に兵庫県南部地方を突然に襲ってきた震度6～7の大地震により、同地の交通網、通信網、ライフライン等は一瞬のうちに壊滅的な打撃を受けた。また、住宅被害は被災地の35～70%が全半壊、一部損傷のダメージを受け、5502人の尊い命が奪われました。誰もがこのような地震が来るとは、予測不可能の自然災害でしたが、しかし、被害を拡大させた一因は、災害発生時の官公庁の対応の遅れが示すように、空前絶後の被災地規模のために正確な情報収集が困難だった事だと考えられる。しかるに、災害時においては、有線通信の利用は不可

能、情報の収集は皆無となるのは常識で有ると再認識すべきであり、その様な情報伝達の不可能な空白時の混乱期にこそ活躍出来るのは、非常通信が可能なアマチュア無線通信で有るべきである。我々の他にもクラブ単位での救援活動は有ったと聞き及んでいるが、しかし、アマチュア無線の組織だった非常通信運用が立ち遅れたのも紛れもない事実で有り、また、反省を促す点でも有る。

私たちの災害支援活動においても、有線通信網が寸断され、災害無線通信が交信の不安定のため、各被災地の実状が外部に正確に伝わらなくなり、被災者が望んでいる支援活動が思うように出来なかった無線通信運用上の反省点が有る。例えば、宝塚市内からはとてもJA3YRL/3が運用している神戸市東灘区にはおろか、近隣市の芦屋市内にでも10MHz機では交信出来ない地域で在り。携帯無線機ではレピーターを介しての交信が不可欠で有るが、肝心のレピーターが停波状態で、情報の伝達方法は移動局、常設場所での運用局の中継に頼る状態で有って、とてもスムーズに情報の伝達が行えたとは思えない問題点が多々有ったが、今回の震災を教訓として、

1：災害時における機敏な組織だった情報通信網の

確立と運用。

2：レピーターの設置を含めた通信の有効活用方法。

以上の様な非常通信の運用上の諸問題について、早急に対応策を思考し、実行すべきであると考えられる。

以上

末記になりましたが、被災されました方々の一日も早い復興をお祈りし、また、参加支援してくださいました方々、携帯無線機を貸し出していただきました(社)日本アマチュア連盟に心よりお礼申し上げます。

無線局設置

①平成7年1月21日：ボランティア団体(応援する市民の会)の現地事務所内に基地局を設置する。
運用期間：平成7年1月21日～同年2月19日まで。
運用状況：連絡用、道路情報の収集。
設置場所：兵庫県西宮市 公会堂内
搬入機材：144MHz/430MHz モービル機・・・計1台
430MHz ハンディ機・・・計1台
アンテナ、同軸(30ㇳ) 安定化電源・各1個

資「応援する市民の会とは大阪府社会福祉協議会、大阪ボランティア協会、大阪YMC、関西NGO協議会、経済団体連合会、ささえあい医療人権センターCOML、たんぼぼの家、地域調査計画研究所、奈良まちづくりセンター、日本青年会議所、日本青年奉仕協会、兵庫ボランティア協会等が呼びかけて出来た団体」

②平成7年1月25日：新聞販売店内に基地局を設置する。
運用期間：平成7年1月25日～同年4月1日まで。
運用状況：各避難場に配る無料新聞紙面の枚数確認連絡、及び、道路情報の収集。
設置場所：読売販売店内 兵庫県宝塚市小林5丁目
搬入機材：144MHz/430MHz モービル機・・・計1台
430MHz ハンディ機・・・計1台
アンテナ、同軸(15ㇳ) 安定化電源・・・各1個

③平成7年1月29日：(社)日本アマチュア無線連盟より携帯無線機を拝借する。
運用期間：平成7年1月29日～同年4月1日まで。
運用状況：各基地局間との連絡用、道路情報の伝達等の非常通信に使用。
場 所：災害救援隊 事務局
搬入機材：8J3AEG、8J3AEH、8J3AEI、8J3AEJ、8J3AEK、8J3AEL、8J3AEN、8J3AEM、8J3AEO、8J3AEP・・・計10台

④平成7年1月30日：仁川小学校(避難場)に携帯無線機を配備する。
運用期間：平成7年1月20日～同年3月31日まで。
運用状況：連絡用に使用。
場 所：仁川小学校 兵庫県宝塚市仁川宮西町
搬入機材：8J3AEG、8J3AEH・・・計2台
*追加配備：非常通信用無線機
平成7年1月30日：新聞販売店内に携帯無線機を

配備する。

運用期間：平成7年1月30日～同年2月15日まで。
搬入機材：8J3AEI、8J3AEJ・・・計2台

平成7年2月15日：新聞販売店内に携帯無線機を配備する。

運用期間：平成7年2月15日～同年4月1日まで。
搬入機材：モービル機(8J3AMQ)・・・計1台
8J3AJD、8J3AJE、8J3AJF、・・・計3台
アンテナ、同軸(30ㇳ)、安定化電源・・・各1個

*移 設：非常通信用無線機(新聞販売店用)
平成7年2月15日：災害救援隊 事務局に携帯無線機を移設する。

8J3AEI、8J3AEJ・・・計2台

*返 還：非常通信用無線機
平成7年2月11日：日本アマチュア無線連盟に携帯無線機を返還する。

8J3AEL、8J3AEN、8J3AEM、8J3AEO、8J3AEP・・・計5台

その他

①安否紹介

2月16日付けで下記のはがきを、激震災害地在住者宛に発送した。

何かお手伝い出来ることはありませんか。

未曾有の大被害をもたらした「阪神大震災」が起きて早、一カ月を過ぎようとしておりますが、未だ、ライフラインが完備されていない所も多々有り、物心ともにご傷心の事と推察致します。

アマチュア無線を愛する仲間として、何かお手伝いが出来ましたらと思ひご連絡させていただきました。何かとお取り込み中ご不便があるかと存じますが、何かございました時は、いつでもご連絡下さいれば、すぐにお手伝いになりますので、なんなりと仰せ下さいませ。誠に微力ではございますがお役に立てれば、幸いと存じます。

全国84愛好会 JH3YRO
〒606 兵庫県宝塚市仁川月見ヶ丘16-11
TEL 0798-54-0908
長澤 道一

講習会の管理者名簿控え
から抜粋した人数・・・80人
その他、知り合いの被災
地在住者アマチュア局・・・17人
発送枚数 合計97枚

②ボランティア人員の派遣

家屋の片づけ手伝い、引っ越しの手伝いに等に8回、延べ人数18人が参加協力致しました。

義援金寄付を送って頂いた方々

ボランティア募集

移送サービスボランティアに参加致しませんか。
 活動内容「障害者や高齢者の方々を対象に、移送サービスを行う」

- ①運転ボランティア。
 - ②本部ボランティア。
 - ③添乗介助ボランティア。
- 連絡は、兵庫県南部地震
 「移送サービス支援ボランティア」対策本部
 Tel.030-31-84579
 0798-26-9160~2迄

災害救援活動と弊害

私の住んでいる、宝塚市は南側に西宮市を望む位置に有り、震災後、家屋の撤去廃材を運ぶ大型トラックがひっきりとなく通行する幹線道路が間近に有ります。

3エリヤー管内では、11号[から、コールサインが無いのか?、11号[帯では特に呼出符号を言わない局を聴ききする事がありました。震災後は特にその様相がひどくなってきました。

先日も、3局で交信していた大型ダンプカーらしき局に、「コールサインを言って使って下さい」と忠告したら、驚く事に「災害救援で京都から出ているが、免許などはない。救援活動をしているのに文句があるか。」と、災害救援活動を盾に何をしても良いみたいの応答でした。全く、お話になりません。確かに、災害復旧が一番優先される事柄では有るが、それだけの理由で、無免許運用が容認されるとは決して考えられません。アマチュア無線は資格が要る。当たり前だが、当たり前でなくなっている被災地の現状に憤りを感じているのは私だけでは無いはず。速やかな、電監の無免許運用局の取り締まりを期待したいものです。

DE J J 3 U X N

・震災関係ニュース・

被害状況(近畿管区警察局調べ)

4月30日午後11時45分現在

	死者	不明
兵庫	5480	2
大阪	20	-
京都	1	-
計	5502	2

新交通規制(4月29日から)

日曜、祝日は規制が全面解除されてマイカーを含め全車両が幹線道路を走れます。

収支報告

①収入	190,000円	
②支出	140,000円	(見舞金の配布)
	10,000円	(車の燃料代)
計	40,000円	残金

2: 収支明細

- ①個人19人、団体5クラブより、190,000円の義援金寄付をいただきました。
- ② 14人の人達にお見舞金を配りました。
 14人×10,000円=140,000円
 引越、移動用に燃料代を支払いました。
 5,000円×2回=10,000円
- ③現在、40,000円の残金がありますので、お疲れさん会の食事代に充填させていただきます。

新しい交通規制（日曜・祝日は規制を解除）	復興物資輸送ルート	路線名	区間
		国道43号線	尼崎市・武庫川2丁目交差点～神戸市灘区・岩屋交差点
生活・復興関連物資輸送ルート	阪神高速湾岸線	{上り}	深江浜～中島
		{下り}	中島～魚崎浜
	名神高速	尼崎～西宮	
	阪神高速神戸線	尼崎東～武庫川	
	国道2号線	尼崎市・西大島交差点～神戸市灘区・岩屋交差点	
生活・復興関連物資輸送ルート	第二神明	明石西～須磨（東行き全区間）	
	阪神高速北神戸線	伊川谷～箕谷（東行き全区間）	
	第二新神戸トンネル	箕谷～神戸市中央区・二宮橋交差点（南向き全区間）	

時間	対象
午前6時～午後8時	復興等除外指定標章を掲示している車両、バス、タクシーを除く
同上	同上
同上	同上
同上	同上
同上	復興等除外車両標章を掲示している車両、貨物車、バス、タクシー、二輪車を除く
午前6時～正午	同上＝ただし、二輪車は125cc超
午前6時～同9時	同上
同上	同上

全避難所の閉鎖へ

◆ 宝塚市は市内に有る 27ヶ所の避難所を5月21日で閉鎖する事を決めた。しかし、まだ、36所帯が住宅確保が困難であるが、仮設住宅の入居申し込みをしていない為、仮設住宅の入居が完了する来月の8日から、個別面談で仮設住宅へ入居することの理解を求めていくとの考えを示した。

仮設住宅の3次募集の1360戸に対して、辞退者を見込み1493人の応募者全員を当選としたが、既に始まっている入居手続きでは、480戸のうち、すでに200件の辞退者が出ている。

◆ 芦屋市では順次、避難所の統廃合を進め、最終的には市民センターと市民体育館の2ヶ所に移ってもらう計画であるが、しかし、仮設住宅に入れない市民や隣接の神戸市東灘区民ら4～500人が避難所に残ると予想される。

◆ 西宮市が行った、避難住民5,185人からの聞き取り調査では、

① 68%＝自宅の改築、修理の計画が無く、帰宅の予定が立たない。

② 20%＝修理中、自宅以外に行く所がある。

「約7割の人が帰宅のメドがない」との回答得た。また、統廃合についても、学校などの教育施設に避難している人の約半数が「移動できない」と答えている。

◆ 神戸市は7月末をメドに384ヶ所の避難所の一部を除いて閉鎖する方針を明らかにした。

神戸市内には40,133人の入達が避難所におられ、震災百日を機に、避難所になっている学校などへの影響を考慮、連休明けから①民間施設②20人以下の施設③学校などの教育施設④地域の公共施設の順に廃止。最終的には市内9区に1～2ヶ所ずつにする。

阪神間の避難所と人数

	避難所	人数	避難所	人数
西宮	109	4,576	宝塚	27
芦屋	39	1,799	伊丹	15
尼崎	54	848	川西	0

合計 244ヶ所 8,136人 17日現在

被災所帯数(24日)

兵庫県災害対策本部は24日、県内の全半壊、焼失家屋の棟数と被災所帯数をまとめ、以下のように訂正した。

- ①全半壊(焼)家屋は11市11町の200,162棟。
 - ②被災所帯は415,659所帯。
- 内容は、全半壊家屋=192,706棟で406,337所帯。全半焼=7,456棟で9,322所帯。

緊急対策案

政府は、大規模地震などの大災害が発生した場合の体制について緊急対応策をまとめた。具体的には①官房副官(事務)が主幹して警察庁、防衛庁、国土庁などの関係省庁の局長クラスによる緊急会議を発生から30分以内に首相官邸で開き、情報集約を行う。

②発生から2時間後をメドに閣議を開き、「非常災害対策本部」などの設置を決める。

③3時間後に政府調査団を現地に派遣し、現地対策本部を発足させる。という物であり、27日に開かれる「防災問題懇談会」の了承を求め、答申を得て正式に決定する運びです。このシステムは、東京では震度5以上、その他の都市では6以上の地震に適用する。

都市復興基本計画案

兵庫県は、県内に19の新しい都市核を設け、住宅建設や産業振興の受け皿とする「阪神・淡路都市復興基本計画」を明らかにした。

倒壊した被災者の借家権を認め、立ち退き者に対しては、金銭の補償をする方針を明らかにした。従来の法律では家屋がなくなれば、借家権は消滅するが、震災都市借地借家臨時処理法の「優先賃貸権」を借家権と解釈した特例措置。借家人を保護することで、再開発事業の促進を図るのが狙い。

テント村事情

神戸市では、7月末までに“テント村などの避難生活”を解消させたい意向であるが、現在、神戸市内で不自由なテント村生活を続けている被災者は3,000人にのぼり、市の目標達成は困難な見通しを示している。

読売新聞社が実施した聞き取り調査によれば、公園や校庭など屋外にテントを張ったり仮設小屋を建てたりして避難生活をしている人は灘区約730人、長田区660人、東灘区から須磨区までの6区で計約3,000人いることがわかった。

*100人以上が屋外避難生活されている場所

南駒栄公園	＝約240人
本町公園	＝約150人
岩屋公園	＝約110人
小野柄公園	＝約110人
夢野台高校	＝約100人
門口公園	＝約100人
稗田公園	＝約100人

*テント村の現状 (111カ所)

		東灘区	灘区	中央区	兵庫区	長田区	須磨区	計
初期に設置したテントをそのまま利用している	各自で設置 自衛隊が設営	3	4	2	8	5	-	22
テント内に板を張るなど、補強、改良を加えて生活している	コンテナハウス	1	4	-	-	1	1	7
テントを小屋などに替えた(現在造り替えている)	木造の小屋・ログハウス さまざまな形態が混在	2	2	-	-	3	2	9
		-	1	-	1	1	2	5

*テント村の分類 (111カ所)

生活している人数による分類 (人)									
9	10	20	40	60	80	100	120	140	160

以下	19	39	59	79	99	119	139	159	以上
42	24	23	9	5	1	5	0	1	1
設置している場所による分類									
公園	校庭	空き地	駐車場	路上	建物撤去後の更地				
75	14	9	7	4	2				

*屋外で避難生活を続ける人の心身の状態 (全246人、複数回答)

健康を維持している		80 (30%)
変調が生じた	疲労が激しい	100 (38%)
	体重が減った	80 (30%)
	よく眠れない	72 (27%)
	下痢や便秘を繰り返す	52 (20%)
	肩凝りが激しい	46 (17%)
	集中力が低下している	33 (13%)
	頭痛がひどい	33 (13%)
	よく風邪をひく	18 (7%)
	強いストレスを感じる	18 (7%)
	よくめまいがする	17 (6%)
	胃腸の動きが低下、内臓疾患の発症・悪化	14 (5%)
	腰痛がひどい	12 (5%)
	高血圧	11 (4%)
体重が増えた	10 (4%)	



釣りに行ってきました。

6月に入って、神戸湾では5月の様な爆釣りがありませんが、相変わらず黒鯛が好調です。

今年は、5月の中旬に第1回目の乗込みがあり、多くの釣り人が2桁の釣果をマークしましたので、次の乗込みが何時になるのか、期待を待っています。

なお、現在釣れている魚は、抱卵はしておりますが、まだ、まだ、成卵されておらず、産卵はもう少し先になると思えます。

6/24 中潮・満潮19:43・潮位126%

〔釣り場〕

5防 (時間=15:00~17:00)

赤灯 (時間=17:00~21:00)

〔釣果〕

黒鯛 (45・42・31%) 3匹、

〔釣り方〕落とし込み

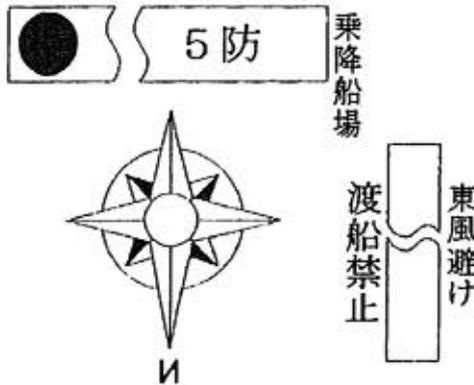
道糸=3号蛍光色、ハリス=1.5号

はり=がまかつの溪流8号

竿3.3号 (5防) 2.7号 (赤灯)

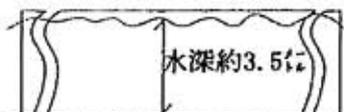
[餌] クモガニ、イガイ
相変わらず、餌取り（ガシラ、アブラメの新子）が多いので、硬めの餌で餌取り対策は必要。

[渡 船]
加島渡船=神戸市中央区真砂通2-1-7
Tel.078-221-5653



震災で全体的に沈下していますので、渡る場合は、長靴・カッパで足元が濡れない様にして下さい。

渡れるのは、17:00から21:00までです。



《潮時表 神戸》

7月		満 潮		干 潮	
日	曜 夕	午前 潮高	午後 潮高	午前 潮高	午後 潮高
1	土 中	8.21 146	21.40 152	2.40 98	16.02 33
2	日 中	8.59 139	22.18 149	3.22 99	15.36 44
3	月 中	9.40 131	22.57 146	4.07 100	16.12 55
4	火 小	10.29 123	23.37 144	4.58 99	16.52 69
5	水 小	11.32 117	- -	6.02 95	17.38 83
6	木 小	0.20 143	13.30 115	7.35 86	18.36 96
7	金 長	1.08 142	15.53 125	8.56 73	19.59 109
8	土 若	2.07 143	16.53 138	9.50 58	21.34 116
9	日 中	3.12 146	17.42 149	10.38 42	22.41 117
10	月 中	4.10 151	18.24 158	11.24 28	23.33 114
11	火 大	5.02 158	19.03 164	- -	12.09 10
12	水 大	5.51 165	19.39 168	0.19 108	12.52 8
13	木 大	6.38 170	20.15 168	1.02 100	13.33 7
14	金 大	7.23 171	20.52 166	1.45 93	14.14 12
15	土 中	8.09 166	21.32 161	2.30 87	14.55 25

16	日 中	8.56 155	22.12 155	3.19 85	15.35 42
17	月 中	9.44 141	22.53 148	4.14 85	16.13 64
18	火 中	10.37 126	23.34 141	5.28 86	16.48 85
19	水 小	11.42 114	14.26 112	- -	7.39 84
20	木 小	0.07 135	20.04 124	8.46 80	21.20 123
21	金 小	0.27 131	20.38 134	9.38 76	- -
22	土 長	- -	21.21 139	10.18 72	- -
23	日 若	- -	21.19 138	10.46 66	- -
24	月 中	2.00 134	22.53 13	- -	19.14 137
25	火 中	4.33 142	18.32 144	11.44 50	23.39 122
26	水 大	5.24 150	18.55 152	- -	12.19 41
27	木 大	6.09 157	19.26 159	0.21 111	12.55 35
28	金 大	6.52 162	19.58 163	1.02 101	13.30 32
29	土 大	7.32 163	20.31 165	1.41 95	14.04 35
30	日 中	8.11 161	21.04 163	2.19 91	14.37 42
31	月 中	8.51 155	21.37 160	2.58 89	15.10 53

de JJ3UXN

JARL 大阪支部大会

先日 (6/11)、大阪支部大会が吹田資源リサイクルセンター「くるくるプラズ」内で開催されました。今回は阪神大震災後と言うことで「震災救援とアマチュア無線」の講演が行われました。

震災後と言うことで、会場は満席で立ち見が出る程の反響ぶりでした。

講演の内容に関しては、富安氏 (JK3LF0) の講演によるところのJA3YRL局の設置に関する問題点=個人の自宅に設置するのは、プライバシーの問題等で長期は無理である。

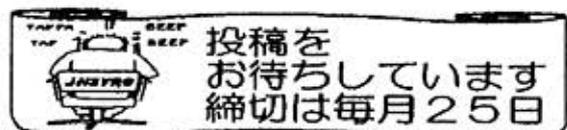
我孫子氏 (JH3GXF・兵庫県支部) の講演=当初の動きの拙さに関する指摘。

等の発言がなされましたが、公式な会合で、連盟の役員個人を名指しで非難するのは、行き過ぎとの感を感じ得ず、講演の本質を間違えて、後味の悪さを残す結果だけが残った。

どの様な事が有ったにしろ、講演を個人の批判の場所に使うと言う行動は、非難されてしかるべきだと考えられ、連盟、アマチュア無線に取ってマイナス要因を残す結果だと思われる。今回の講演における講演者の人材選びの設定ミスが露見した結果でも有り、また、災害通信の全体図を把握しておられる方が居られないとの事実を示した一例でもある。なお、講演者の人選は、大阪支部からの依頼で兵庫県支部が独自選出したものです。

編後記・

日、一日と暑さが厳しくなって来ましたが、暑さに弱い？私としてはクーラー病にかからないように、今から良い方法が無いかな思案しております。いい方法があれば、教えて下さい。ペコ。MN



特別局「JA3RL」活動報告書

*活動報告と反省及び提案

1

*JA3RLのオペレーター予定表

3

阪神・淡路大震災に於ける災害救済活動報告書

報告者 : 橋尾 正一 JR3JUM 〒558 大阪市住吉区墨江3-20-2

運用局 : JA3RL

運用場所 : 大阪市天王寺区大道3-8-31 JARL関西地方本部

運用期間 : 平成7年1月29日～平成7年3月31日

運用周波数 : 436.88MHz 436.72MHz 436.50MHz

運用者 : アマチュア無線家によるボランティア

参加局数 : 16名

活動の推移

- 1/28 非常通信の運用、非常通信の支援等にボランティア募集を新聞でJARL関西地方本部が呼びかけ、約30名が集まった。
島関西地方本部長から非常通信の運用は「郵政省より436.88MHz、436.72MHz、436.50MHzが認められ1/29よりJA3RL局を災害復旧支援センター局として開局する」と話され、たが行動の具体策がない。運用は2月末迄連日午前10時～午後7時迄、オペレーター出勤計画表を参加者で作成。
最初の支援活動は西宮市の公園教会（応援する市民の会：災害救済最大のボランティア集団）に連絡したが、アンテナ、無線機は以前設置してもらったが、今は携帯電話があるので必要性がないとの話しでこの支援活動は中止した。
- 1/29 JN3JLP（小坂氏）のアレンジで神戸市長田区役所でAMDA（アジア医師連絡協議会）の支援局（JARL岡山県支部：武蔵氏グループ）の引継をJA3QVQ（増石氏グループ）が行ない基地局8J3AMSとした。
- 2/4 JN3JLP（小坂氏）のアレンジで神戸市東灘区保健所に基地局8J3AMLをJA3QVQ（増石氏グループ）が開設した。
- 2/11 JN3JLP（小坂氏）のアレンジにより、オペレーター5人が各基地局の運営状況と要望等の打ち合わせ及び被災避難所5ヶ所の状況調査を行う。（JA3YRL：東灘区の富安氏宅、8J3AMJ 灘区の神戸学生青年センター内、8J3AML：東灘区の東灘区保健所内、8J3AMO：芦屋市役所北館内）
- 3/31 JA3RL非常通信等の業務終了。

活動内容：

郵政省より認められた430MHzの3波周波数の確保、妨害局の排除

レピーター局（JR3WA：439.34MHz、1,291.06MHz、JR3VU：439.98MHz、JR3VA：439.54MHz、JR3VK：439.78MHz）の周波数確保及び妨害局の排除。

サブセンター局（JA3YRL）と基地局の調整

各基地局へボランティア無線家の派遣

各基地局の器材等の調達

反省と提案

被災地並びに大阪、奈良、京都の各無線局が個人的又グループで、被災後直ちに安否情報、援助活動、災害復旧に各地でボランティア活動を行っていた事実を知るに及び、被災地の地方本部が震災後10日間も関西地方本部が行動を起こさなかった点に於いて、指導、決断、判断力の有無が大きく問題にされるべきである。

今後このような事態再発防止に地方本部長の代行、補佐をする組織と同時にそれらを補佐する事務局体制を作る必

要がある。。

災害隣接地の大阪府支部の支援が不十分であった。

今後は災害隣接支部が最先端で災害の支援する組織作りをする必要がある。

統一した指示、命令がなく各基地局が混乱を起した。

今後は早期に非常通信特別委員会を作り指示、命令を一本化する

指定の430MHzの3波の非常通信周波数が混信を受け各基地局とも大変苦労した。

今後は非常通信周波数の選定は各基地局にまかせ運用をスムーズにし、各基地局とセンター局との連絡は非常通信連絡周波数1波のみを設定し、非常通信周波数（各基地局と配下のハンディー機で使用）とを区別して運用する。

情報不足のため有効な活動が制限され、又は出来ない事があった。

今回はJARI会員以外の協力が大きく、今後は会員外の協力の対策を考える必要がある（会員のメリットとして会員証提示で機材購入の割引等の特典などで会員増加を図る）そして平常時から他団体との友好関係を作り情報の交換を行う事が大切である。

災害救援の基地局を立ち上げ、基地局、ハンディー機使用局運用方法、非常通信連絡網略図等のノウハウの構築が最も必要。

当番.T3L 95年 1月28日 15:10

CALL SIG	氏名	1/28	1/29	1/30	1/31	2/1	2/2	2/3	2/4	2/5	2/8	2/9	2/8	2/9	2/10	2/11	2/12	2/13	2/14	2/15	2/18	2/17	2/18	2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25	
1	JA3RCT 野瀬田芳則			○	○	○	○				○	○	○	○	○			○	○	○	○										
2	JA3OME 今村政雄		○						○	○								○	○	○	○										
3	JA3QVQ 増石 広之			○									○					○	○												
4	JA3TVQ 辻本 一	○							○	○									○												
5	JE3LJA 橋 隆	○							○	○																					
6	JE3NGM 小池 元		○	○	○	○	○				○	○	○	○	○				○	○	○	○									
7	JF3NLQ 松原 功一					○	○				○	○	○	○					○	○	○	○									
8	JG3SLN 吉川 豊雄								○	○									○	○	○	○									
9	JH3SHV 宮本 福								○	○																					
10	JJ3MLV 牛込 龍美	○								○																					
11	JJ3WB 渡辺 ケイ治	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○				○	○	○	○									
12	JL3XTQ 小笠原 三	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
13	JN3JLP 小坂 謙二								○	○															○	○	○	○	○	○	○
14	JP3OCB 林 栄也																							○	○						
15	JR2WZA 中西 隆	○		○	○	○	○						○	○	○								○	○							
16	JR3JUM 橋本 正一		○	○	○	○					○												○	○	○	○					

↓
 元通年 15 月
 台 030-42-49154
 番号 "17"

当番.T3L 95年 1月28日 15:10

阪神淡路大震災に於ける、緊急通信態様と

今後における、J A R L 事務局の対策について

平成7年7月15日

神戸市須磨区車字尾鼻462-13

J R 3 X T Y, 澤井 清澄

tel-078-741-3247

記

大阪一期一会 クラブ員

表題につきまして、関西 J A R L, 事務局を始め、大阪支部長、並びに関係クラブの、方々にはご苦勞を お掛け致しました、心より厚く御礼申し上げます、尚、一層健康に留意され、益々の御発展を願うもので、あります、さて今回の災害に於ける諸問題につきまして今後の、諸策に成りますれば、幸甚に思います、

- 1、活躍できたクラブは日頃より、友だちずきあいがよく、毎月の会費も徴収せず、リーダーの努力と、人柄が大きく左右しました。
- 2、今回の災害に対する取組方について
被災地では、停電のため緊急通信が、不能となり、余震のため、送電が遅れ不安が募るばかりで、自家発電機の必要性を感じました、直ちに900V9Aの、水冷4気筒を購入、万全を期して居ります、
- 3、罹災局は、電波の不通および、ライフラインの断絶により、無線どころではなく、連絡のとりようがなく、思考力さえなかつた局が多々ありました、
- 4、幸いにして、半壊で後は水だけ、の人とかが、通信確保の為努力されたが、残念な事に、リーダーが居らず、指揮 連絡 対策、等に
対処できなかつた、私どもは、8 J 3 A M J / 谷さんの傘下で、お手つだい、出来ました、
- 5、行政側に対する提言
 - a、非常時における、対策、物資の備蓄、倉庫の建造、通信設備の確保、災害訓練及び防災関係会議等には、アマチュア無線・代表者の参加、または、J A R L 都道府県支部長宛文書にて連絡されたい、
 - b、郵政省は、非常事態に際し、A. M. ラジオ放送で、アマチュア、無線局に対し、非常通信周波数を報道し、テレビでは、テロツブを流してはどうか、検討願います、

c. 最近、U. H. F. のサテライト局がふえ、小電力で放送されているので、アンテナ直下にブースターを使用、これらブースターの増幅帯は幅広く、430、MHz帯はカット出来るので、正確なデータで、製品化するよう指導されることを願います、T V I の発生は色々な要素が、有りますが、最近のA V関係、の製品は、プラスチック部分が多くつかわれ、企業のさいさんが、有ろうかと思うが、少なくともフィルター回路に力を入れて頂くよう、J A R L、より関係監督庁に指導方要請頂きたい、

NO. 1. 災害関連事案

ボランティア参加関係各員の協力者の氏名（コールサイン）の、どちらかを、J A R L、NEWSに掲載し、その努力を、評価してやって欲しい、すでに掲載された局もあります、

NO. 2. 阪神淡路大震災救援者関係

大阪府泉南郡役場より、発信の電波を、この私が傍受直ちに通信を開始、神戸まで救援物資を車で今から、運ぶがどうかとの、内容でありました、車ではとても無理です、船ではこんで貰えないかと提案、無理をお願いした、暫くすると船の手配ができたので、しゅつぱつするとの、連絡がはいつた、その間、神戸市災害対策本部と連絡をとり、受入れ体制をいそがせた、救援物資船が海上に到着、再度市側に申し入れたが、具体的なはなしが、かえつて来ないので、厚くお礼を言い西宮市に回船、ある所へ物資を下ろし帰途に就かれた、
J G 3 M D H Q R A ? 1月22日セ09-21分
J A 3 I I K 今非様 1月22日セ09-25分

心がいたみます、J R 3 X T Yヨリ泉南各局に厚く御礼申し上げます

近畿地区アマチュア無線・緊急ネット

設立趣意書	1
会員募集案内	3-4
運営規則・経則	5-7
発足会及び第1回ミーティング	9

設 立 趣 意 書

災害はいつ発生し、いかなる状況がおこるかだれにも予測はできないものである。
また、有事の際を想定し、緊急時における連絡体制を確立することは極めて重要なことである。

今回、阪神・淡路大震災では初期時における電話回線の不通や停電または道路の損壊等により、通常の情報手段が大混乱となり、情報手段または情報網の不備が指摘された。

このことを反省材料とし、人命の救助、災害の救援等に速やかに対応できるようアマチュア無線を活用し、非常時に必要な機関（日本アマチュア無線連盟、行政、エネルギー供給機関、日本赤十字社、マスコミ等）との連携体制を日頃から確立しておかなければならない。

そこで、近畿圏内のボランティアのアマチュア無線局を募り、緊急時における行政等の支援活動を目的とした「近畿地区アマチュア無線、緊急通信ネット」を設立するものである。

1995年平成7年8月

設 立 発 起 人 （順不同）

氏 名	（呼出符号）	住 所
谷 通好	JA3WGL	神戸市灘区
小中 幸雄	JQ3NVK	尼 崎 市
小坂 雄二	JN3JLP	吹 田 市
高安 繁彦	JR3LVP	河内長野市
沢井 清澄	JR3XTY	神戸市須磨区

各 位

近畿地区アマチュア無線、緊急通信ネット
会長(代表者) 谷 通 好
〒657 神戸市灘区八幡町2-3-19

「近畿地区アマチュア無線、緊急通信ネット」の会員募集について

貴局には、ますますご健勝でアマチュア無線活動にご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、今回の阪神、淡路大震災の体験と教訓から、別紙のとおりボランティアのアマチュア無線局を募り、緊急時における行政等の支援活動を目的とした標記通信ネットを設立いたしました。

つきましては、入会を希望する方は、下記要領により別紙「入会希望届」に必要な事項を記入のうえ封書で申し込んでください。

なお、緊急時における協力につきまして※(3)は特に必要な資料となりますので記入方よろしくお願ひします。

また、提供いただきました貴局の資料(データ)は慎重に取り扱いますが、個人のプライバシーにも関わりますので書ける範囲で記入してください。

末筆になりましたが、貴局のますますのご発展をお祈り申し上げます。

記

1. 「入会希望届」の記入のしかた

- (1) 入会希望者住所。(電話番号、FAX番号)：通常連絡のつく電話番号を記入して下さい。
- (2) 呼出符号または無線従事者免許番号：アマチュア無線局の運用が条件ですので、必ず記入してください。

※(3) 緊急時の協力について：緊急時に協力が可能なものまたは特技を記入してください。書ける範囲で結構です。

- ※① 勤務とボランティアの関係について
 - A：勤務があり、勤務が優先となる。
 - B：いつでもボランティア活動ができる。
 - C：その他()

※② 協力可能なものを○で囲んでください。：略記号の協力可能なものに○をつけてください。

(略記号)

発：発電機あり、持参して協力可能	ド：Faxあり
単：単車あり、持参可能	携：携帯電話あり
自：自動車あり(乗用車、トラック)	パ：パソコンあり(インターネット)
運：自動車運転免許あり	ビ：ビデオ撮影機あり
医：医療関係	ワ：ワープロが操作できる
薬：薬剤関係	事：事務整理、情報分類
グ：無線グループ所属(協力者あり)	調：料理ができる

平成 年 月 日

近畿地区アマチュア無線、緊急通信ネット
会長（代表者） 谷 通 好 殿

（入会希望者）

氏名 _____ 印

入 会 希 望 届

貴会の趣旨に賛同し、下記により入会を希望します。
つきましては、会員としての登録をよろしくお願いします。

記

1. 入会希望者住所 〒 _____
電話番号 ☎ _____
Fax番号 ☎ _____
2. 呼出符号または無線従事者免許番号 _____
3. 緊急時に協力できること。 ※（別紙参照：略記号を○で囲んでください）

① 勤務とボランティア	A	B	C	その他（ ）
② 協力可能なもの	発 パ 携 調 他（	単 ビ 医 ク	迎 リ 薬	自（乗用車、トラック） ド 車 ）

4. 会費、年額1,000円（小為替）同封の上、入会を申し込みます。

※ 入会希望届の必要の方は、返信用封筒に宛名を記入し、90円切手を貼り請求ください。
複数の入会希望者があるときは、コピーをしてください。

「近畿地区アマチュア無線、緊急通信ネット運営規則」

第1章 名称及び事務所

第1条 本会は、「近畿地区アマチュア無線、緊急通信ネット」と称する。
(以下「本会」という。)

第2条 本会は事務所を代表者(会長)宅におく。ただし、緊急時に際し、状況変化のある場合は臨時に事務所を移転することができる。

第2章 目的及び事業

第3条 (1) 本会は、他団体との連体を深め、関連諸機関、団体、市民の協力のもとに通信訓練を実施する。

(2) 本会は、アマチュア無線を利用し、災害、事故発生時に関係諸機関と連携して、人命の救助、災害の救援等の通信に協力する。

第3章 組織

第4条 本会の構成員はアマチュア無線局の運用ができ、かつボランティア活動を希望する者とする。

第4章 役員

第5条 本会の代表者(会長)は構成員の互選により選出する。

第5章 会議

第6条 本会を運営するための会議は必要に応じて代表者が招集する。

第6章 補則

第7条 この規則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、代表者が別に定める。

付則

(1) この会の運営に必要な経費は年額1,000円の会費その他寄付金をもって充てる。ただし、家族で複数名が会員の場合は代表者のみ1,000円の会費を徴収し、他は徴収しない。

(2) この規約は平成7年10月 / 日から施行する。

(細則)

第1章 名称及び専務所に関する細則

当面は阪神・淡路大震災（兵庫県南部大地震）被災地とその周辺地域から通信網を整備し、将来的には全国的な通信網に発展させたい。このため当面は「近畿地区アマチュア無線、緊急通信ネット」の名称を使用する。

第2章 目的及び事業に関する細則

災害、事故等発生時とは、通信圏内で以下の状況と条件が発生し、報道機関、行政、気象庁から発表があったとき通信を開始する。（通信の開始）

- (1) 「震度4以上の揺れ」
- (2) 「大雨、土砂崩れ、雪崩、大規模な火災、ガス漏れ事故などによる避難勧告」
- (3) 「海難、遭難等人命に関わる事態の発生」
- (4) 「その他、大規模な交通事故などの緊急事態の発生」

初期活動態勢が開始したら、構成員は直ちに以下のことを行う。（通信の運用）

- ① 当該地区の構成員間で、24時間時刻を問わず有線電話で通報し、無線電話傍受と周辺の状況把握につとめる。（情報収集の開始）
- ② ラジオ、テレビ、アマチュア無線移動局などから緊急、非常事態の情報を聴取した時は、遅滞なく無線機をスタンバイ状態にする。
- ③ 連絡周波数については当初、433MHz F3の呼び出し周波数とし、他の構成員に報知するため、「開局宣言を發放」すること。「例：J〇3〇〇〇開局」その後、呼び出し周波数から混信のない周辺周波数で通信（時と場合により非常通信）を選択する。必要のある時は、短波、超短波の周波数で複数運用する。
- ④ 緊急、非常通報を「緊急、非常確認情報」と「緊急、非常未確認情報」に区分し、事項の關係諸機関へ有線電話で連絡する。有線電話が不通または長時間になる場合は当該関係先へ無線局を派遣することもある。
「例：J〇3〇〇〇です。未確認情報ですが（前置き）、通報事項……」
- ⑤ 日本アマチュア無線連盟（JARL）と綿密に協力して運用と活動を行う。

関係諸機関とは以下の機関をいう。（通報連絡先）

- ① 日本アマチュア無線連盟、各都道府県支部長
- ② 消防署 ③ 警察
- ④ 行政機関等の災害（防災）対策本部
- ⑤ 電力、ガス等供給会社 ⑥ 水道供給元
- ⑦ 日本赤十字社各都道府県支部
- ⑧ 各地の報道機関（放送局、新聞社）

第3章 組織に関する細則

構成員は以下の資格と資質を備え、なおかつボランティア活動を希望する有志をもって組織する。また入会を希望するものは、会長へ「入会希望届」を提出し入会する。

- ① アマチュア無線局の運用ができること。
- ② 緊急、非常通播の理解ができ、通信能力を有すること。
- ③ 通信を行うに際して、広報性と正確な情報の送受ができ、なおかつプライバシーの保護等、法の遵守ができること。
- ④ 人間愛、郷土愛を有していること。
- ⑤ 通信設備を所有していること。

他のボランティア活動をしている団体等から協力の申し出があった場合、連携をしながら協力をして支援活動にあたる。

第4章 役員に関する細則

会長は統率力があり、かつ高い見識を有するものを構成員の互選により選出する。会長は、緊急時に率領となり、また関係諸機関との連絡調整を行う。また会長は必要に応じて係を任命することができる。

第5章 会議に関する細則

本会を運営するための会議、研修その他訓練等は必要に応じて代表者が招集する。

第6章 補則に関する細則

運営に関し必要なことが発生した場合は代表者が定め、構成員の同意をえる。

その他 経費に関する細則

- (1) ボランティア活動となるので、衣食住など全て個人的負担を原則とする。
- (2) 緊急事態発生時における経費は、関係機関より支出してもらうことがある。

近 第 1 9 9 5-001号
平成 7 年 1 2 月 2 3 日

各 位

近畿地区アマチュア無線・緊急通信ネット
会長（代表者） 谷 通 好
〒657 神戸市灘区八幡町2-3-19

近畿地区アマチュア無線・緊急通信ネット発足会
及び第1回ミーティングの開催について（お知らせ）

師走の候、貴局にはますますご健勝でアマチュア無線活動にご活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、標記会合を下記により開催します。

つきましては、賛同者多数の参加方よろしくお願い申し上げます。

なお、本状は本日現在の希望者あて送付いたしましたので、他に希望者があれば連絡いただけましたら幸いです。

言 己

- 1、日時 平成8年1月14日（日）午前10時～12時
- 2、場所 日本アマチュア無線連盟関西地方事務局（2階会議室）
〒543 大阪市天王寺区大道3-8-31 電話06-779-1676
JR環状線『寺田駅』徒歩北西約7分
- 3、内容 ①近畿地区アマチュア無線・緊急通信ネットの発足について
②活動計画について
③平常時における連絡体制について
④その他
- 4、その他 ①参加各局は各自名札を準備願います。
②会場付近は駐車場が少なくまた駐車場所がありませんので電車等でおこしてください。
③会場準備の都合がありますので1月8日（月）までに当局あて出席または欠席の連絡をお願いします。
④当日、入会希望者があれば会場で受け付けますのでご連絡下さい。

（名札例）

コールサイン 氏 名

追 記

本会を発足するにあたり、設立発起人（5名）が会合をもちました。

その結果、平成7年10月1日より会を発足させ、会員の募集を行うとともに活動を開始いたしました。

なお、発起人会の会長（代表者）は谷 通好が推薦され受諾いたしましたことにより本文書等を送付しております。よろしくご理解とご協力のほどお願い申し上げます。